

人口 424,717人  
 男 209,456人  
 女 215,261人  
 (前月より169人増)  
 世帯 183,729世帯  
 (前月より89世帯増)  
 (2010年12月1日現在)

外国人を含む人口と世帯

発行・町田市 編集・政策経営部広報広聴課広報係  
 〒194-8520 東京都町田市中原1-20-23  
 市役所の代表電話042・722・3111  
 町田市コールセンター ☎042・724・5656



☎042・724・5600  
 発行日・毎月3回1の日(1日、11日、21日)  
 ホームページ <http://www.city.machida.tokyo.jp/>

携帯電話用QRコード

## 今号の紙面から

7面

年始の救急診療

町田リス園 ☎734・1001

3日から開園

お正月限定

うさぎ年だよ



### うさぎと遊ぼう広場

開催

○期日 1月3日(月)～6日(木)  
(4日は休園)

○入園料 3歳以上小学生まで200円、中学生以上400円

1月3日(月)にはうさぎのピョンピョンレース(午前11時からと午後1時30分から)もやってるよ



# 迎春

～芹ヶ谷の木立に響く蹄の音と大歓声～  
 昨年11月28日、芹ヶ谷公園で流鏝馬(やぶさめ)が披露されました。  
 疾走する馬から見事に射抜かれると、観客の皆さんからは大歓声が沸き起こりました。  
 この催しは町田流鏝馬実行委員会などが企画したものです。



「町田の魅力」で話が盛り上がりました

## 新春対談 2011

### 未来を開く都市

### ひとづくり・まちづくり

作家・森村誠一さんを招いて

新年明けましておめでとうございます  
 市民の皆様には新しい年をお健やかに迎えることとお喜び申し上げます。

2011年最初の広報まちだは、市内在住の作家・森村誠一氏をお迎えし、石阪市長との新春対談をお届けします。

石阪 明けましておめでとうございます。2011年初春にふさわしいゲストとして、町田市在住の作家・森村誠一さんをお招きして、町田市について大いに語り合いたいと思っています。森村さんは町田市にお住まいになってどのくらいになりますか。

森村 平成2年に厚木市から引っ越してきましたから、今年で21年目になります。厚木は都心に出るのにやや距離があったので、アクセスの良い

所へ引っ越したいと思っていました。そんな気持ちでいたところに、作家仲間町田市の前住人の赤川次郎氏から「町田がいい」と言われ、他にも複数の作家たちから町田を推薦されたことがきっかけです。

石阪 森村さんには町田市民文学館を開設する際、開設準備懇談会の会長を務めていただき、ありがとうございます。また、一昨年10月から昨年1月まで、文学館で「森村誠一展」を開催させていただきました。さらに昨年4月には、蔵書を始めご自身の自筆原稿や愛用品など、貴重な文学資料を町田市民文学館にご寄贈いただきました。本当に町田市民文学館とは深くかかわっていただき、ありがとうございます。

森村 最初から文学館に関わりを持ち、そこで個展を開きたいというような野心を持って引っ越してきたわけではありません(笑)。

### 作家にとっての地の利、環境とは

森村 町田に住もうと思った最大の理由は、現地の環境とつか地勢に魅かれたからです。起伏があって、自然の緑も豊かで、しかも中央へのアクセスがいい。「ここだ」と直感して、「つひの栖」の意

識でやって来たので、文学館との関わりは望外の喜びです。

石阪 いま都心へのアクセスがいいと言われましたが、作家にとって地の利というのは重要なことなんでしょうか。

森村 非常に重要です。編集者が来やすく、中央とのコミュニケーションが取りやすいほうが有利です。今はインターネットを始め色々なコミュニケーションの手段がありますが、やはり直接話すほうがいい。

中央に出やすいこともそうですが、町田からは羽田、成田、横浜へのアクセスもいい。石阪 確かに町田には、交通面での選択肢が色々あります。交通の便のほかに、周辺の環境も作家の方には大事なことでしょか。

森村 作家にとって、環境は非常に大事です。書くものに影響しますから。江戸川乱歩は自宅にこもって作品を書きました。が、実は外界からの影響を受けるために閉じこもっていたんです。閉所にいると

逆に外のことが良くわかりますから。これは極端な例としても、環境は作品にかなり影響します。もし私が絶海の孤島にいたとしたら、社会性のある作品は書けないでしょう。私小説とか、俳句、詩歌